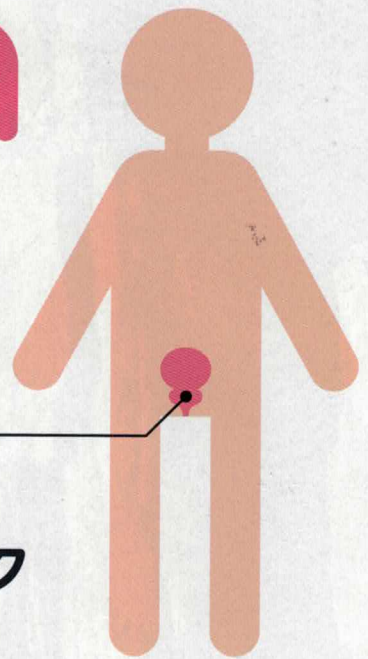


臓器のはなし



今月は 前立腺

男性にしかない臓器 肥大を健診等でチェック

尿が出づらいは
危険なシグナル

前立腺は、男性だけにある臓器です。前立腺液といわれる精液の一部を作り、精子に栄養を与えたり保護する働きを担っています。

前立腺の疾患といえば、やはり前立腺がん。早期の場合、あまり自覚症状がありませんが、尿が出にく

い、排尿の回数が多いなどの症状に注意してください。進行すると、血尿や骨への転移による腰痛などの痛みが出てきます。近年、急増しているがんの一つですから、特に高齢期の男性は注意が必要です。

がんが発症すると、その種類ごとに特徴的な物質が血液中に増えることがあります。これらが「腫瘍マーカー」と呼ばれるもので、がんの発症や進行具合をみる指標になります。

前立腺からできる腫瘍マーカーはPSAと呼ばれ、効率的な前立腺がん発見につながります。健診も普及し、前立腺がんは早期発見がしやすいがんになりました。

がんと共存する
選択肢もある

がん以外の代表的な前立腺の疾患は、同じく高齢者がかかりやすい前立腺肥大。前立腺は膀胱を囲うように存在していますが、それが肥大することで尿道を圧迫。尿意が生じてもなかなか出ない、または排尿後スッキリしないなどが、前立腺肥大の代表的な症状です。

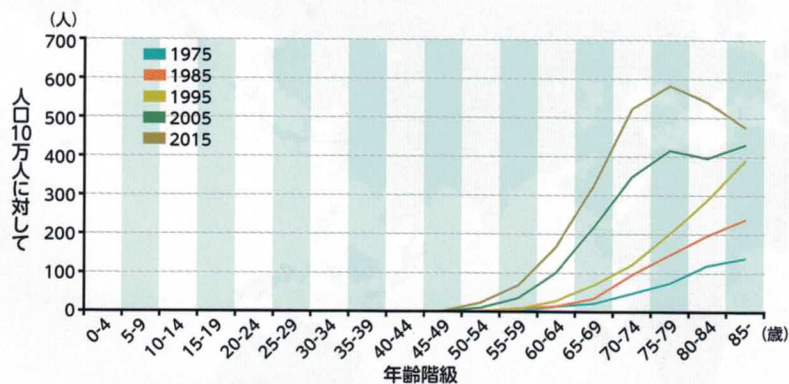
前立腺肥大は、下腹部のエコー検

査でみつけることができます。治療は飲み薬で行いますが、排尿しにくい症状が改善しない場合には、尿道に管を通す治療を施します。これはかなりの激痛を伴います。

なお前立腺肥大から前立腺がんへ進行することは、基本的にないと考えられています(それでも病院では、前立腺肥大が見つかったら、念のため前立腺がんがないかを調べます)。

前立腺がんの手術療法である前立腺全摘除術ですが、全身麻酔をした時の合併症や尿漏れなどの排尿障害が起きるなどリスクも覚悟しなければなりません。ですから注射剤を定期的に打って、悪化の原因とされる男性ホルモンの量を減らして症状を抑えるホルモン療法を選択する方も少なくありません。

高齢者の場合、前立腺がん以外にも重い病気にかかる可能性があり、QOL(生活の質)を前提に考え、前立腺がんと共存する道を選ぶ方がたくさんいるのも当然でしょう。高齢化社会の現在、がんを患うのはある意味、特別ではありません。そのなかでうまく共存できる代表的ながんが、前立腺がんなのです。



前立腺がん
年齢階級別罹患率(全国推計値)

出典：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」(2018年)

監修

浅海 直

あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。